

●総来場者数 55名  
○団体の運営効率化と情報発信の強化を目的に、AI(ChatGPT)とデザインツール(Canva)を学ぶ全2回の研修を実施しました。各自のスマホやパソコンを使い、座学と実習に取り組みました。  
AI編では、文書作成への活用方法とリスクを学び、実際に操作を体験。「安心して取り組めた」「講師の説明がわかりやすかった」と好評でした。Canva編では、チラシ作成や動画編集に挑戦。「実践的で役立つ内容だった」と参加者の満足度が高く、「続編をまた開催してほしい」との声もあり、広報活動の簡略化への熱意が感じられました。デジタルツールの導入により、効率的な広報が可能となり、市民活動の認知度向上や参加促進につながる事が期待されます。



## なごみん 7/31 聾学校×地域 協働創出事業

●総来場者数 65名  
●協働先: 愛知県立岡崎聾学校、ピランチャヨガ  
○聾学校生徒、地域住民、市民活動団体、14名の学生ボランティアが参加する交流イベントを開催しました。手話やホワイトボードを使った自己紹介の後、「笑いヨガ」の体験。会場には自然と笑顔が広がり、体を動かしながらお互いの心の距離を縮めることができました。  
参加者からは「楽しかった」「もっと交流したい」といった感想のほか、「子どもたちの夢や目標を聞いてみたい」「一緒に楽器演奏がしたい」といった今後への期待の声も寄せられました。  
本事業を通じ、聾学校、地域、市民活動団体、学生ボランティアが互いの活動を理解し、協力しながら地域活動を広げていくきっかけを提供することができました。



## りた職員の思いを伝える！コラム

### 大阪・関西万博に行ってきた！

私は大阪・関西万博に数回行くことができ、10月13日の最終日にも行ってきました！最終日は特に多くの人が集まり、会場全体に熱気と名残惜しさがあふれていました。  
万博は単なる展示の場ではなく、世界の技術や文化、未来への思いを体感できる貴重な場です。特に印象的だったのは、持続可能な社会づくりをテーマにした展示で、環境や地域の未来を考えるきっかけを与えてくれました。  
何度も訪れたことで、見るたびに新しい発見があり、また人々の表情から「未来への期待」を強く感じました。日常ではなかなか味わえない高揚感を共有できたのは、万博ならではの魅力です。  
私は今回の経験を通じて、まちのイベントに積極的に参加することで、自分自身の視野も広がるのだと実感しました。これからも地域や社会の動きを感じながら、自分なりの未来への関わり方を考えていきたいです。



石田浩美（よりなんセンター長）

2008年11月入社。現在はセンター長としてセンター運営を行いながら、地域交流センターの広報と自主事業を担当。プロフィール写真は、万博【大阪ヘルスケア】内のリボーン体験でのミライ(2050年)のじぶんです。

お問合せ	よりなん	59-3600	むらさきかん	66-3066	市民活動センター	23-3114
なごみん	やはぎかん	33-3665	悠紀の里	57-5050	まち育て推進チーム	23-2888

まちのミカタ

Litaracy

2025.11 vol.136

発行・編集



特定非営利活動法人  
岡崎まち育てセンター・りた

〒444-0031 愛知県岡崎市梅園町3丁目6-6  
TEL(0564)23-2888 / FAX(0564)23-2898  
http://www.okazaki-lita.com/  
https://www.facebook.com/okazaki.lita/

配布

岡崎市図書館交流プラザ・Libra／岡崎市内の地域交流センター  
会員宛へ郵送 等 ※会員登録をご希望の方は左記までご連絡ください。

配布協力

岡崎市役所各支所／岡崎市各市民センター／シビックセンター／  
FMおかざき／杉くんの駄菓子屋／松應寺／cafeくらがり／

まちのミカタ

Litaracy

ーりたらしいー

136

2025年11月



むらさきかん〔受援力のススメ〕 NPO法人こえもじによる研修内容のリアルタイム字幕



真剣に耳を傾ける受講者の皆さん



悠紀の里〔IT利活用研修〕: Canvaでチラシを作成中



やはぎかん〔写真や動画を極めよう〕: 写真の構図のコツを伝授

特集

## 市民活動のステップアップを目指して！ — 市民活動サポート研修 —

平成18年、岡崎まち育てセンター・りた設立。それから19年間、りたは中間支援組織として市民活動を支援してきました。その間、例えば活動の広報媒体は、物理的なチラシ配布から徐々にSNSを活用する比重が高くなるなど、市民活動を取り巻く環境は変化し続けています。

りたが指定管理者として運営する地域交流センターでは、毎年一連の企画として「市民活動サポート研修」を開催しています。上述したような時代や社会の要請に応じて市民活動団体の取り組みが変化していけるように、また、

団体がもつ特性や課題に寄り添い、コロナ禍をはじめ様々な困難を乗り越えていける考え方やスキルを身につけてもらえるように、考え、企画してきました。講座後も必要に応じて団体をフォローアップや伴走支援し、市民活動団体のマネジメント力向上に貢献しています。

「誰かのために」と一歩を踏み出すのが市民活動団体、その背中や足元をそっと支えたいと企画している講座(研修)です。ぜひご参加ください。



# 市民活動のステップアップを目指して！ — 市民活動サポート研修 —

## ●市民活動サポート研修の概要

岡崎市地域交流センターでは市民活動団体向けの研修を、基礎的な内容から専門性の高い講座まで、幅広い分野にわたって開催してきました。以下に、これまで開催した主な講座を掲載いたします。

テーマ	講座名	内容
マネジメント全般	・2022年度(南)「市民活動いちから講座①②」 ・2024年度(北)「市民活動マネジメント研修①②」	・市民活動団体登録制度紹介 ・団体運営のポイントと事例紹介 ・団体運営に関する情報・意見交換会
広報情報発信	・2022年度(北)「情報発信力強化研修」 ・2023年度(六)「人を巻き込む仕組みづくり研修①②」 ・2024年度(六)「市民活動情報ひろば活用研修」 ・2025年度(西)「写真や動画を極めよう①②」	・映える写真・動画の実践的撮影講座 ・1to1や講座形式での情報ひろば運用 ・共感を生む広報力の向上 ・コミュニケーション基礎から実践 ・チラシづくり、インスタ活用
IT利活用	・2022年度(六)「IT利活用研修」 ・2023・24年度(東)「IT利活用研修」 ・2025年度(六)「IT利活用研修 ①AI編 ②CANVA編」	・ChatGPTやCANVAを活用した広報 ・情報モラルの基礎と生成AI ・LINEを団体運営に活かすには ・Google機能の組織内導入
資金調達	・2022・23年度(西)「資金調達力強化研修①②」	・補助金の意義と活用 ・赤い羽根共同募金ハッピーリンク活用 ・公益活動補助金などの紹介と申請
ボランティア	・2023年度(南)「はじめまして！ボランティア」 ・2025年度(東)「受援力のススム」	・ボランティア受入に必要な受援力 ・ボランティア経験者と受入団体の対談
その他	・2022・24年度(東・西)「SDGs研修①②」 ・2024年度(南)「イベント運営レベルアップ講座」	・SDGsの基礎と学校や企業の事例紹介 ・パートナーシップ事例紹介と福祉体験 ・イベント運営基礎。企画から実践まで

## ●開催予定の講座案内

### ・11/15（土）「ひとりじゃない社会をつくる、支援のヒント」【なごみん】

ひと口に市民活動団体といっても、その活動は文化芸術からスポーツ、子育て、環境、教育など様々。その中でも、ひきこもりや障がい、介護といったテーマは、問題が家庭の中に閉ざされがちで内容が重たいケースもあり、社会が抱える大きな課題です。こうした分野で支援活動が続ける団体こそ、活動のヒントを得て互いのネットワークを広げてほしいと願い、本講座を企画しました。講師は、1,000件以上のNPO等の起業支援・経営支援をされてきた、NPO業界の第一人者である藤岡喜美子氏。現在は、（一社）こども女性ネット東海の実行理事をされています。真に社会課題と向き合う人にこそ聞いてほしい講座です。

### ・12/9（火）「情報ひろば活用」【よりなん】

岡崎市の市民活動団体に登録されることのメリットの一つが、WEBサイト「おかざき市民活動情報ひろば」に自団体紹介のページを開設できることです。現在、約460団体が掲載されています。

しかし、せっかく掲載されても、新しい情報が発信されず市民の皆さんに届かなければ宝の持ち腐れ。慣れないと難解に思われがちなのこのサイトですが、コツさえ掴めば簡単に作成や更新作業が可能です。活用方法を分かりやすく紐解きますので、どうぞ安心してご参加ください。

## ●これからの市民活動を見据えて

今年度の研修では、生成AIが市民生活に浸透し始め、それを市民活動に活かそうと多くの方がIT利活用講座に申し込みました。一方、岡崎市が市民活動団体に対して行ったアンケートでは、「会員の高齢化が進んでいる」「新たな会員が増えない」といった回答が多く、活動の継続性に課題を感じている団体が多くありました。来年度は、これらのニーズや課題を視野に入れながら、市民活動が地域の繋がりと活性化をもたらす豊かな社会へと導けるよう、一層力を入れていきたいです。引き続きご期待ください。

## まち育てレポート 未来を担う子どもたち ～2025年夏～

地域交流センターでは、夏休みに合わせ子どもを対象としたイベントを開催しました。子どもたちはいったいどんな体験をしたのでしょうか。レポートをお届けします。 ※イベント概要については「まちのワ」11月号を併せてご覧ください。

### ■ Episode1 「まちから学ぼう！市民活動×夏の宿題ヒントフェス」@やはぎかん

「夏休みの宿題のヒント」を提供するブースがずらりと並んだ会場の一角。「岡崎星と遊ぶ会」のブースに立ち寄ると、ひとりの小学生の男の子がいました。「自由研究で天体をテーマにするのかな？」と思いきや、“ヒントを提供する側”のスタッフとして参加しているのだとか。彼は、ボードを指さしながら星の集まり「夏の大三角」をととてもわかりやすく説明してくれました。聞くと、「岡崎星と遊ぶ会」のイベント[星空観望会]で星を観察しているうちに、天体に夢中になり、自分で勉強するようになったのだそうです。自分で得た知識が誰かの役に立つ——彼にとっては、この体験は今後の人生の大きな糧になったのではないのでしょうか。



### ■ Episode2 「なごみん横丁」@なごみん

「パックジュース50じやんだって。高っ！」子どもの声が聞こえました。30分働いて50じやんを稼ぎ、20%の税金を納める子どもたちにとって、50じやんのジュースは30分働いても買えません。2じやんの水に比べると、ジュースは贅沢品…なごみん横丁でも物価高は例外ではありません。

そんな中、自分の製作物に1500じやんという高値をつけた子もいました。「売れないのでは？」との予想に反し、その日のうちに売買成立。1500じやんという一見法外にもみえる値のついたものに、それに見合う価値を見出した子がいたのです。なごみん横丁は、まさに社会の縮図。子どもたちは労働の大切さや経済の仕組みを実感として学んだに違いありません。



子どもたちは、様々な体験をすることでめざましい成長を遂げます。同じ場所、時間、感動を共有することであつという間に友だちになれます。イベントを楽しみながら、子どもたちは自主性・創造性・協調調・社会性を自然と身につけていくのです。同時にまた、知らず知らず自分のまちへの愛着を深めていくのです。

地域社会の担い手不足が深刻となっている今、りたはこうしたイベントを通して「まちに愛着や関心を持つ次世代を育てたい」と考えています。大人になった彼らが、自分の育ったまちの地域活動に参加し、まちづくりの担い手になってくれることを願っています。未来を担う子どもたちを、りたはこれからも応援し続けます！

りた's Eye

先日、岡崎市が公立小学校の部活動を2028年度までで廃止するという新聞記事を目にしました。地域交流センターでも、放課後の子どもたちが好奇心を満足させられるような素敵な取り組みが用意できたらと思います。

## お知らせ

## おかざき公益ナビ巡回展のご案内

岡崎市内の市民活動団体等が取り組む公益活動を紹介するWebサイト「おかざき公益ナビ」。9月から、このサイトに掲載した事例の展示会を、下記日程・場所で巡回中です。たくさんの市民の方にご覧になっていただいています。



展示を見た方からは、「興味深い事業が多く、一気に見れてよかった」「いい取り組みなのでぜひ継続していったほしい」といった感想をいただいています。展示は残すところあと2センターです。お見逃しなく！

12/3(水)～12/13(土) 西部地域交流センター・やはぎかん  
2/9(月)～2/12(木) 図書館交流プラザ・りぶら

センターによって展示時間が異なります。詳細はお問合せください。